Super Classic Concerts

第23回 スーパークラシックコンサート

スウェーデン放送合唱団

広上淳一 指揮 京都市交響楽団 第10回 名古屋公演

ソリスト変更

世界最高峰の合唱団による

2大レクイエム×広上&京響

フォーレ：レクイエム ニ短調 op.48　モーツァルト：レクイエム ニ短調 K.626

指　揮／広上 淳一（京響常任指揮者兼ミュージック・アドヴァイザー）
独　唱／ケイト・ロイヤル（ソプラノ）
アリョーナ・アブラモヴァ（メゾソプラノ）
オリヴァー・ジョンストン（テノール）
ミラン・シリアノフ（バリトン）
合　唱／スウェーデン放送合唱団
管弦楽／京都市交響楽団

2019 11.24（日） 16:00開演（15:15開場）

愛知県芸術劇場コンサートホール

S席 13,000円　A席 11,000円　B席 9,000円
C席 7,000円　D席 5,000円　U25 2,000円（全席指定・税込）

※未就学児のご入場はお断りいたします。※やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順などが変更になる場合がございます。その場合もチケットの払い戻しは承れません。ご了承ください。
※車椅子席でご来場されるお客様はご購入前に必ずクラシック名古屋までお問い合わせください。※U25は、クラシック名古屋（電話）のみ取り扱い。25歳以下、来場時に年齢確認有。お一人様1枚限り。

主催：東海テレビ放送・（公財）京都市音楽芸術文化振興財団・京都市　協力：クラシック名古屋

【公演のお問合わせ】東海テレビ放送 事業部　052-954-1107（平日10:00～18:00）

【チケットのお問合わせ】東海テレビチケットセンター　052-951-9104（平日10:00～18:00）　クラシック名古屋　052-678-5310

プレイガイド
- 東海テレビチケットセンター　052-951-9104（平日10:00～18:00）tokai-tv.com
- アイ・チケット　0570-00-5310　clanago.com/i-ticket
- チケットぴあ　0570-02-9999（Pコード：134-118）
- ローソンチケット　0570-084-004（Lコード：41055）　0570-000-407 ※オペレーター対応
- 芸文プレイガイド　052-972-0430
- 栄プレチケ　052-953-0777
- e+（イープラス）　eplus.jp
- 名鉄ホールチケットセンター　052-561-7755

スウェーデン放送合唱団 The Swedish Radio Choir
広上淳一 指揮 京都市交響楽団 第10回 名古屋公演

スウェーデン放送合唱団 Swedish Radio Choir

1925年に創設。1952年、合唱の神様と称される大指揮者のエリック・エリクソンが首席指揮者に就任し、現在の形態となった。以来飛躍的発展を遂げ、世界のトップ・アンサンブルとしての地位を確立した。その後、アンデシ・オルウェル、グスタフ・ショークヴィストという巨匠たちに引き継がれ、1994年よりエストニアの巨匠トヌ・カリユステが首席指揮者に就任。このスウェーデン放送合唱団にとって初の外国人指導者により、東欧圏のレパートリーの拡充がなされ、グレツキ、シュニトケ等の録音で数多くの賞を受賞。またリゲティ、サンドストレム、ペルト、ペンデレツキ等の現代の大家がこの合唱団のために作品を書いている。新鋭のペーター・ダイクストラが首席客演指揮者を3年間務めた後、2007年9月に音楽監督に就任。彼は、エリック・エリクソン、トヌ・カリユステという両巨頭の薫陶を受け、スウェーデン放送合唱団の伝統を承継した。録音も国際的に評価が高く、2014年にリリースした「ブラームス:カノン・ミサ、モテット集、祝辞と格言」は2015年エディソン賞に輝いた。2018年にダイクストラが退任してから、今シーズンは音楽監督をおかずに活動している。これまでに、スウェーデン放送響、ベルリン・フィル、フィルハーモニア管、ミラノ・スカラ座フィル等のオーケストラと、ゲルギエフ、ブロムシュテット、ムーティ等の指揮者と共演している。なかでも、アバド&ベルリン・フィルとは厚い信頼で結ばれ、1992年ブラームス「ドイツ・レクイエム」、1994年シューマン「ファウストからの情景」、1995年ストラヴィンスキー「エディプス王」、1996年ベートーヴェン「第九」等のレコーディングや、定期演奏会およびジルベスター・コンサート、ザルツブルク・イースター・フェスティバル等への出演など数多く行った。また1996年日本公演のベートーヴェンの「第九」、マーラーの「復活」でも空前の大絶賛を博した。2年連続でN響ベスト・ソリスト賞を受賞。穢れなく完璧な歌声を響かせる世界最高峰の合唱団として、その名声は世界各国に轟いている。

広上 淳一(京都市交響楽団常任指揮者兼ミュージック・アドヴァイザー)
Junichi Hirokami(Chief Conductor & Music Advisor of the Kyoto Symphony Orchestra)

東京生まれ。東京音楽大学指揮科に学ぶ。1984年、26歳で「第1回キリル・コンドラシン国際指揮者コンクール」に優勝し、国際的な活動を開始。1991～95年ノールショピング響首席指揮者、1991～2000年日本フィル正指揮者、1997～2001年ロイヤル・リヴァプール・フィル首席客演指揮者、1998～2000年リンブルク響首席指揮者、2006～08年米国コロンバス響音楽監督を歴任。近年では、ヴァンクーヴァー響、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響、バルセロナ響、モンテカルロ・フィル、サン・パウロ響、ニュージーランド響などへ客演。オペラの分野でも国内外で活躍し、シドニー歌劇場、新国立劇場などへ客演。2013年「第32回藤堂音楽賞」、2015年京響とともに「第46回サントリー音楽賞」、2016年「第36回有馬賞」受賞。東京音楽大学教授。京都市立芸術大学客員教授。2008年4月から京都市交響楽団第12代常任指揮者、2014年4月から第12代常任指揮者兼ミュージック・アドヴァイザーに就任。2017年4月からは札幌交響楽団友情客演指揮者も務める。

京都市交響楽団 Kyoto Symphony Orchestra

日本唯一の自治体直営オーケストラとして1956年創立。2008年4月第12代常任指揮者に広上淳一が就任。2014年4月から常任指揮者兼ミュージック・アドヴァイザーに広上淳一、常任首席客演指揮者に高関健、常任客演指揮者に下野竜也が就任。2015年広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞。同年6月広上淳一指揮のもとヨーロッパ公演で成功を収め、2016年は創立60周年記念国内ツアーと京都市内で「ふらっとコンサート」を開催し、平成28年度地域文化功労者表彰を受ける。2017年4月からは下野竜也を常任首席客演指揮者に据えて広上・高関・下野による3人指揮者体制を確立し、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。

ケイト・ロイヤル(ソプラノ) Kate Royal(Soprano)

ロンドン生まれ。サー・サイモン・ラトルとはベルリン・フィルやバイエルン放送響との共演の他、バーデン=バーデン音楽祭で《魔笛》パミーナを歌い、EMIクラシックスよりマーラー《復活》をリリース。エイジ・オブ・エンライトメント管とはBBCプロムスやバーデン=バーデン音楽祭へ登場。チョン・ミョンフン/ミラノ・スカラ座管、パブロ・エラス=カサド/ロサンゼルス・フィル、アラン・ギルバート/ニューヨーク・フィル、フランツ・ウェルザー=メスト/クリーヴランド管、ダニエル・ハーディング/スウェーデン放送響、エサ=ペッカ・サロネン/フィルハーモニア管等と共演している。オペラでは、グラインドボーン音楽祭やルツェルン音楽祭の他、テアトロ・レアル、英国ロイヤル・オペラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、メトロポリタン歌劇場等に登場し、《ばらの騎士》マルシャリン、《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・エルヴィーラ、《ポッペアの戴冠》ポッペア等で好評を博す。

アリョーナ・アブラモヴァ(メゾソプラノ) Alyona Abramova(Mezzo-soprano)

ロシア生まれ。2018/19シーズンはバイエルン国立歌劇場に、《カルメン》のメルセデス(指揮:カレル=マーク・チチョン)、《エフゲニー・オネーギン》のオルガ(指揮:ヨアナ・マルヴィッツ、演出:クシシュトフ・ヴァリコフスキ)で登場した。また同歌劇場ではこれまでに、《修道女アンジェリカ》の看護係修道女(指揮:キリル・ペトレンコ)、《椿姫》のアンニーナ(指揮:アッシャー・フィッシュ)、《オベロン》のティタニアとパック(指揮:アイヴァー・ボルトン)、《ランメルモールのルチア》のアリーサ(指揮:アントニーノ・フォリアーニ)の役を歌っている。グラインドボーン音楽祭へは、《ルサルカ》の第三の森の精(指揮:ロビン・ティチアーティ)でデビュー。ルトスワフスキとラフマニノフの音楽が用いられた《アンナ・カレーニナ》では、バイエルン国立バレエ団と共演。ロストロポーヴィチ国際音楽祭では《皇帝の花嫁》のドゥニャーシャを歌い、好評を得る。

オリヴァー・ジョンストン(テノール) Oliver Johnston(Tenor)

英国王立音楽院で学ぶ。ガージントン・オペラで《インテルメッツォ》のシュトローと《ファルスタッフ》のフェントンを、キリル・カラビッツ指揮ボーンマス交響楽団との《サロメ》ではナザレ人2を、英国王立音楽院では《5月の夜》のレフコを演じた。オールドバラ音楽祭に登場した際には《サロメ》のナラボートと《ビリー・バッド》の新米水夫を演じ、ボルドー国立歌劇場にはヘンデルの《メサイア》で、カンマーアカデミー・ポツダムには《エリヤ》でデビューした。また、ウラディミール・ユロフスキ指揮ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団とはヴォーン・ウィリアムズの《音楽へのセレナード》で共演し、2016年のBBCプロムスには最終夜のプログラムでサカリ・オラモの指揮でデビューした。若いオペラ歌手のための全ロシア・ナジェジダ・オブホワ・コンクールで第3位を受賞。2016年ザルツブルク音楽祭の「ヤング・シンガーズ・プロジェクト」に参加した。

ミラン・シリアノフ(バリトン) Milan Siljanov(Baritone)

バイエルン国立歌劇場で、《フィガロの結婚》のアントニオ、《ニュルンベルクのマイスタージンガー》の夜回り番、《死者の家から》のチェクノフ、《オテロ》のモンターノ、《ヘンゼルとグレーテル》のペーター、《魔笛》の弁者、《ラ・ボエーム》のショナール、《サロメ》のカッパドキア人等を演じている。ギルドホール音楽院でルドルフ・ピエルネイに師事。2018年ミュンヘン国際コンクール声楽部門で第2位を受賞。2015年ウィグモアホール/コーン財団国際声楽コンクールで優勝。2014年スヘルトーヘンボス国際声楽コンクールでは優勝と同時に聴衆賞を受賞した。これまでに、ヴァレリー・ゲルギエフ、キリル・ペトレンコ、アイヴァー・ボルトン、インゴ・メッツマッハー、シモーネ・ヤング等の指揮者と共演している。2018/19シーズンのハイライトは、ケンブリッジ音楽祭での《冬の旅》、オメール・メイア・ヴェルバー指揮ドレスデン・シュターツカペレとのハイドンの《ネルソン・ミサ》、シュトゥットガルトのフーゴー・ヴォルフ国際アカデミーでのカール・レーヴェ記念公演、オックスフォード・リーダー・フェスティバルやウィグモアホールでのリサイタル等がある。